

平成24年6月27日

平成24年度 第3回 教育記者会懇談会

- 1 ベトナム憲法改正調査団の来訪について 【資料1】
- 2 鶴竜関の来訪について 【資料2】
- 3 古川元久国家戦略担当大臣の医学部附属病院視察について 【資料3】
- 4 科学研究費補助金の採択状況について 【資料4】
- 5 豊田講堂の「第13回公共建築賞優秀賞」の受賞について 【資料5】
- 6 あいちサイエンスコミュニケーション・セミナーの開催について 【資料6】
- 7 平成24年度名古屋大学公開講座について
- 8 オープンキャンパスの開催について
- 9 今後の本学の行事予定 【資料7】
- 10 その他  
次回開催日等について

## 名古屋大学がベトナム憲法改正調査団を受け入れ

名古屋大学は、平成24年7月6日（金）ベトナムからグエン・スアン・フック副首相を団長とする憲法改正調査団の訪問を受け入れます。

本学は、1995年の民法起草時以来、ベトナムの法整備を長年に渡り支援してまいりました。この度の調査団の名大訪問は、ベトナム司法省の依頼により行われるもので、ベトナムの憲法改正の参考とするため、ベトナム司法省が名古屋大学の憲法研究者と意見交換を行うことを目的としています。実施にあたっては、国際協力機構（JICA）および在ベトナム日本国大使館が協力しています。

この調査団は、フック副首相の他、ハ・フン・クオン司法大臣、グエン・タイ・ビン内務省大臣などを含み、このようなベトナム政府最高幹部が調査のため日本の大学を訪れることは極めて異例のことです。

この受入において、名古屋大学において次の行事を予定しています。

- ① 本学法学研究科の憲法研究者とベトナム憲法改正調査団との、ベトナムの憲法改正についての意見交換
- ② 愛知県内のベトナム進出企業向けベトナム法務セミナー

## わが国による開発途上国の法整備支援



森島 昭夫

一、はじめに

二〇一一年二月二日からカンボジア王国民法典が施行された。一三〇五条にのぼるこの基本法典の立法作業は、一九九九年から日本政府（国際協力事業団、現在は国際協力機構 JICA）が技術協力プロジェクトとして全面的に支援してきたのだが、JICAのこの法整備支援事業に最初から関わってきた私にとって、法典施行にはひとしお感慨深いものがある。このような折に、『學士會会報』に執筆させていただく機会をいただいたので、本稿では、わが国の法整備支援事業の立ち上げに関わってきた経験を紹介しながら、

ことに対する疑問も呈されている。

私は、後に述べるように、「図らずも」というべきか、「事の成り行きで」というべきか、それまで日本政府が手をつけていなかった、ODAとしての法整備支援事業をゼロから立ち上げるという経験をした。一九九六年からはじまったベトナムの法整備支援プロジェクト、そして一九九八年からのカンボジアのプロジェクトにおいて、それぞれ責任者として、相手国政府機関との交渉からプロジェクトの企画立案、国内関係機関の調整や実施組織の立ち上げ、事業の実施にいたるまで、プロジェクト運営にすべて関わった。ODAとしての法整備支援のあり方がどうあるべきかについては、プロジェクトを進めながら常に考えていたといえ、プロジェクトはまさに試行錯誤のプロセスであった。今回、ベトナム、カンボジアでのプロジェクト立ち上げにおける個人的な経験を紹介することによって、わが国の法整備支援事業がどのような背景のもとに、どのように成立したのかを述べることにしたい。

二、異文化移植としての法整備とその支援

法整備支援について述べるにあたって、まず、「法整備」と「支援」ということばについて説明しておく。ここで「法整備」ということばは、字義通り法律

ODAとしての法整備支援について考えてみたい。

ODAとしてJICAの法整備支援事業が開始されたのは一九九八年のベトナムのプロジェクトからである。JICAの事業の対象国や事業内容は、開始以来十数年の間に拡大し、それに伴って法整備支援に関わる法律研究者や実務家の数も増加してきている。昨今では法整備支援論（支援学）といわれる学問分野まで現れ、法整備支援が何を目標として何をなすべきかが改めて問われており、わが国のこれまでの支援事業が評価される一方、被支援国の人権や民主主義、法の支配を確立することに直接関わろうとしてこなかった

制度を整備するというのではなく、異なった歴史文化をもった社会に他の国の法律あるいは法律体系を「移植」という意味で使っている。

わが国では、明治維新後、近代国家体制を整えて安政の不平等条約改正と関税自主権の回復を図るために、独仏法などのヨーロッパ法が移植（継受）され、さらに太平洋戦争後は、連合軍（実際は米軍）の占領下でアメリカ法が大量に移植された。このように、日本の国家法は、さまざまな異文化の法体系に源流をもっており、わが国の伝統社会にいわば接木されたものである。そのため、欧米文化を起源にもつ国家法と日本の社会に内在する社会的規範との間に乖離が生じることが少なくない。日本は明治以来自らの手で懸命に「法整備」（法の移植）を進めてきたが、わが国の実用法学の仕事は異文化のなかで発達した法学的概念やルールを社会構造や社会意識の異なる日本の社会に適用することであった。その意味で、日本、そして日本の法律学は、「法整備」のアジアにおける先達なのである。

次に、法整備「支援」は、「他国」の法整備への「関与」という話である。一九六〇年代から七〇年代にかけて米国はソ連と対抗して二極体制を作るために「法と開発運動」と称して、独立を果たしたばかりのアフリカ諸国やラテン・アメリカ諸国に対して法律顧

問団を送ってアメリカ型民主国家体制作りと法整備の概入れをした。しかし、「法と開発運動」は、それぞれの社会の実情を無視して拙速な法制移植を行ったため、結局失敗した。私は、当時ハーバードやイエールに帰ってきた若い法律家から押し付けの法整備がいかに失敗したかを聞かされた。さらに、一九九〇年頃からソ連崩壊による市場経済移行国に対して、アジア開発、欧州復興開発などによる法整備支援が始まるが、この当時のこれらの支援は、国際金融機関が自行の融資の資金回収を担保するために、不動産登記法、担保法、債権回収法などの断片的な法律の移植を強要するものであり、被支援国の法体制の総合的な整備を図ったものではなかった。

私は、大学や助手時代、あるいはハーバード、イエールでの留学時代に、国家規範と社会規範の二重構造（乖離）や法の移植（継受）などの問題について、前に述べたような視点から取り上げる講義や研究会に出席する機会があった。その時の問題意識が、後に私が法整備支援プロジェクトに関わるようになって、被支援国の社会的経済的条件を前提として、被支援国の社会に受容される法制度を被支援国の法律家とともに整備する、というわが国の法整備支援アプローチに結びついていったのである。

本原則、などといった事項を英文でまとめて数日間のセミナーに向けて旅立った。

行ってみて驚いたことに、当時ベトナムでは法律はまだ国家秘密であったから、ベトナム民法草案の全体像がどういふものであるのかを知らされないままに、講義の合間に、例えば「世帯」とか「全人民的所有」に関する質問が、権利主体や所有権概念との論理的な脈絡もつけないことなしにぶつけられるというような有様であった。英語通訳者のなかには法律用語を理解していない者もあり、しばらく議論をした後で通訳の所為で話が全く通じていないことが分かって通訳を代えなければならなかったこともあった。しかし、日本などの市場経済諸国の民法の概念や制度は、それぞれどのような機能を果たすことを目的として設計されているか、それぞれの制度がうまく機能するにはどのような社会的条件があることを前提しているのか、という機能的な（概念的でなく）観点から民法を説明する私の講義は、社会主義を堅持しながらどこまで市場経済法を取り入れることができるのかということを模索していたベトナム側（少なくとも党中央）にとつては役に立つ情報だったようである。それまでの他の国による講義では、ベトナムの社会政治とまったく関係なしに、理念的概念的に民法について講義したようであった。

### 三、ベトナム法整備支援

一九九〇年三月に名古屋大学法学部長の職を了えた私は、法学部長当時基金を集めたアジア法政治研究プロジェクトを実施に移すためにアジアのいくつかの国を訪問した。一九九二年にベトナム司法省でグエン・ティン・ロック司法大臣にお目にかかったさいに、ロック司法大臣から、日本の法務大臣にベトナム民法立法を支援してくれるよう依頼し、法務大臣も前向きに検討すると言ってくれたのだが、その後何も反応がない、何とかならないものか、という話があった。

当時ベトナムはドイモイ（刷新）が推し進められている最中であり、市場経済化に向けて国を挙げて必死の努力を傾けているところであったから、ロック大臣の熱意こもる話を聞いた私は、ベトナムのために少しでも役立てばと考えて、帰国後直ちに法務省大臣官房にこの旨を伝えた。しかし、その時は法務省は、この件は国際関係であるから所管事項にないということ以外務省に移送した。ところが、外務省はコトの内容は民法という国内法に関するもので国際法ではないということでも法務省に逆照会し、結局、外務省が国際交流基金から予算を付けて、文化交流の一環として民法学者の私が派遣されることになった。話を持ち込んだ私としては断ることもできず、民法とは何か、民法の基礎を説明する私のアプローチがロック大臣の信用を得たのか、ベトナム司法省は直ぐまた来てくれということになった。けれども、日本側は、外務省も法務省もベトナム側の派遣要請には応えたといいことで、この時は、政府による派遣は一回で終了した。しかし、一九九五年の民法制定を目指していたベトナム側の支援要請は強く、私は、名大法学部法政研究基金の予算で再びハノイを訪れ、さらにそれだけでは足りず、自分で費用を負担してその後も訪越したほか、ベトナム側の理解を助けるために、講義の内容のベトナム語訳も専門家に依頼して作成してもらった。

そのようなプロセスを通じて、ベトナム側は日本の支援に全幅の信頼を寄せるようになり、民法起草過程で起きている政府内部の問題点なども話してくれるようになった。やがて私は、ロック司法大臣と内々に話ができるようになり、私が国家所有権などの多様な所有権概念や善意の第三者保護を認めないのは社会主義の残滓で市場経済法としておかしいと指摘したのに対して、それらの問題は党中央では理解されないなどという答えがあった。そして、理論上多くの問題が残っているにしても、ベトナム社会の現状を前提にすれば、この段階では民法典を成立させることが先決であ

ろうなどと、かなり突っ込んだ話をすることができるようになった。

そして、一九九四年に日本政府がベトナムに派遣した経済協力使節団に対して、ベトナム政府はODAとして法整備支援を要請した。そこで、外務省は急速私とJICAの担当者呼んで技術協力プロジェクトの検討を依頼した。しかし、それまで法整備支援について経験がないJICAは、プロジェクトの立ち上げを私と法務省に丸投げせざるをえなかった。ところが法務省も、法整備支援を担当することになる法務総合研修所が人員も予算も限られているところから、当初は内部調整に手間取ってなかなか具体的な取り組みまで進まなかった。私と同様で、当時の学界の主流はアジアに対する法整備支援などはどちらかといえば物好きだという雰囲気であり、私は、プロジェクトに参加してくれる学者を一本釣りするほかなかった。

一九九四年からJICAの法整備支援プロジェクトを立ち上げることにしたが、二年間は本格的なプロジェクト立ち上げの準備期間として、その間、法整備支援プロジェクトの内容をどのようなものにするのか、私を中心に日本側はベトナム政府と交渉に入るとともに、試行的にベトナム司法省や最高人民裁判所の幹部に対して日本（法務総合研修所）で研修を行ったり、

容をここで詳しく説明する余裕はないが、日本から派遣した弁護士を長期専門家として司法省に受け入れてもらい、すでに成立した民法や民事関係法について助言するほか、民事の社会実態調査なども実施した。日本社会が異文化である欧米法を継受した経験を何らかの形でベトナムでも共有してもらいたいという試みであった。最初はベトナム側は外国の法律家に対する警戒心もあったようであるが、日本の専門家は次第に理解され、高い評価を得ている。二〇〇一年からの第二期、さらに第三期と、日本の法整備支援プロジェクトに対する信頼はより深まっている。長期専門家も検事、裁判官、弁護士が派遣されるようになり、さまざまな立法支援や研修を行っている。現在の段階ではむしろ、いつどのような形でベトナムのプロジェクトを終了するのがJICAの課題である。

#### 四、カンボジアの法整備支援事業

カンボジアでJICAの法整備支援プロジェクトが開始されたのは一九九九年三月からである。当時、ポルポト政権のもとで社会経済が根底から破壊されていたカンボジアは、一九九一年のパリ和平協定締結後、九三年までUNTAC（国連カンボジア暫定統治機構）のもとにおかれ、同年カンボジア憲法制定、カンボジア

日本から専門家を派遣して民事法を講義するなどの事業を行った。

ベトナムでのプロジェクト交渉にあたっては、カウンターパートである司法省だけではなく、最高人民検察院、最高人民裁判所をはじめ、大統領府、国会など、すべての関係機関を訪ねて、日本の法整備支援の当面の目的がベトナム社会の市場経済への移行に向けた支援であることの理解を求めるとともに、ベトナム側のニーズを尋ねた。先にも述べたように、ドイモイの最終にあるベトナムで民事法整備などの市場経済関係法の整備は最もニーズが高く、プライオリティの高いプロジェクトであり、要請主義をとるODAに相応しいものと言えたが、各機関からは施設整備改修（例えば、監獄）など、多様な支援要請が寄せられ、その調整（説得）は容易ではなかった。約二年かけて、ベトナム社会に必要な法整備（異文化法の移植）は何か、そして、どのような方法をとれば日本の法整備支援が押し付けでなくベトナム社会に受け容れられ、ベトナム社会の市場経済移行に役立つであろうかということを検討した。

ベトナムの法整備支援プロジェクトは、公式には一九九六年一月からJICAとベトナム司法省との間でR/Dという文書を取り交わして発足した。その内王国設立、九八年二月国際選挙監視団のもとでの総選挙の結果人民党ファン・セン政権成立、という政治過程を経たけれども、国家の統治機構は全く未整備であった。確か、九七年であったと記憶するが、プノンペンで開かれていた会議でベトナムのロック司法大臣は私をカンボジアのチュム・スプーン司法大臣に紹介された。ロック大臣はチュム大臣に日本の法整備支援が被支援国のニーズを重視するものだという話を話されたのではないかと思う。チュム大臣は会議後私を簡素な私邸に招いてくださった。その後グローバル市場に参入していくうえでカンボジアの人材と知見がまったく払底していると熱心に説明され、ぜひ日本にカンボジア社会の基本となる民法典を起草してもらいたいと望まれた。私は、大臣のカンボジアを思う真情あふれるお話には心を動かされたけれども、民法典起草という大事業がどれほどのものか、また、それをJICAの事業として実施できるかどうか、すぐさま判断することはできなかつた。私は、大臣のお申し出を心に重く受け止めながら大臣のお宅を辞した。帰国して、早速JICAと相談したが、多少の問題はあったものの、ベトナムの経験があったため、法務省の協力も円滑であった。学者の一本釣りがベトナムの延長線上で協力

いただいたが、やがてカンボジア側から、民法だけで

はなく、民事訴訟法の起草もしてほしいという要望が加わり、民事訴訟法については、駿河台大学総長の竹下守夫教授に責任者になっていただくこととして、プロジェクトは民法部会、民事訴訟法部会の二本立てで運営することとなった。

当初、民法の起草期間は一年でということであったけれども、私は少なくとも三年を固執した。カンボジア側には、フランスは刑法・刑事訴訟法を一年で起草すると言っている、日本には能力がないのではないかという者もいたが、チェム大臣も三年を了解された（実際には、六年かかった）。私は、ソク・アン内務大臣との交渉で日本の法整備の方針を説明したうえで、カンボジアの法律家の協力を得て、現在、そして将来のカンボジア社会で機能するようなカンボジア民法典を起草したい旨を述べた。このような交渉の結果、民法典はクメール語で起草すること、起草作業には、日本の民法学者グループのほか、カンボジア側から司法省次官など司法省職員、裁判官、土地管理都市計画建設省職員、商務省職員、弁護士など約二〇名が参加し、カンボジアでの起草作業および日本での研修を行うこと、などが決定され、日本から長期専門家が派遣された。民事訴訟法部会もほぼ同様の方針で運営されることになった。

起草チームに参加したカンボジアの法律家達は、最初は未熟であったけれども、日本の専門家と作業を共にする間にめきめきと力を付けていった。もともと能力のある人達であったが、一〇年たった今、起草チームのメンバーはカンボジア法律界のリーダーとして活躍している。ベトナムでもそうであったが、法整備支援プロジェクトが被支援国の法制度の整備に貢献しているだけでなく、人材育成としても機能していることを嬉しく思う。そして、このプロジェクトを通じて、被支援国のひとびとの日本に対する信頼感がより深まってくればと願っている。

(註)

1) 鮎京正訓「法整備支援とは何か」名古屋大学出版会（二〇一年）参照。本書は、法整備支援について書かれた最も優れた著作である。末尾には法整備支援に関する網羅的な文献目録がある。

2) 法整備支援のあり方や課題に関する私の著作は、(注1)鮎京著作の文献目録に掲載されているが、特に、「法整備支援の理念とその課題」法律のひろば五四巻一〇号（二〇〇一年）を参照されたい。

(財団法人日本環境協合理事長・名古屋大学名誉教授・東大・法・昭33)

大関鶴竜関の名古屋大学訪問について  
～モンゴル出身力士が親子で「大モンゴル展」観覧～

概 要：

日本、モンゴル国交樹立40周年に因んで現在名古屋大学博物館で開催中の「大モンゴル展」を、モンゴル出身の大関鶴竜関（井筒部屋）が本学協定大学のモンゴル科学技術大学電力学部長を務める父親とともに観覧し、日本、モンゴルの友好関係を深める。

内 容：

- (1) 名古屋大学は従前からモンゴルとの関係が深く、今年が日本とモンゴルの国交樹立40周年に当たることから、本学博物館において、3月17日から8月31日までの間、「モンゴルの自然、鉱物資源、近代化、環境問題（第一部）」、「モンゴルの伝統文化（第二部）」をテーマに「大モンゴル展」を開催している。
- (2) 本学の学術交流協定大学であるモンゴル科学技術大学においては、3年前に本学のフィールドリサーチセンター（FRC）が設置され、地質に関する共同研究などが行われており、今後さらに交流を活発化する予定である。
- (3) 名古屋場所（7月8日～22日）を控えて名古屋入りしている大関鶴竜関が、本学工学部との協議のため来日する父親であるモンゴル科学技術大学のマンガラジャラブ電力学部長とともに、6月29日（金）、本学を訪問し、「大モンゴル展」を観覧する。
- (4) 当日は「大モンゴル展」の観覧の他、本学で学ぶモンゴル人留学生（現在、学部、大学院生、あわせて18名）との懇談も計画されている。

日 程：

平成24年6月29日（金）13：00～14：30

13：00 名古屋大学着

総長表敬

13：30 大モンゴル展観覧

モンゴル人留学生との懇談

14：30 名古屋大学発

## 古川国家戦略担当大臣来名日程（案）

随行者 黒田内閣審議官  
佐々木秘書官  
八山企画官

### ◆7/8（日）

- 〇〇：〇〇 東京駅 発（のぞみ 号）
- 〇〇：〇〇 名古屋駅 着
- 〇〇：〇〇 移動（名古屋駅 → 名大病院）  
\* 公用車利用？
- 11：00 名古屋大学鶴舞キャンパス 着  
\* 外来棟玄関でお迎え  
\* 中央診療棟7階特別会議室へ案内・誘導
- 11：05 挨拶・懇談（中央診療棟7階特別会議室）  
\* 濱口総長あいさつ  
\* 古川大臣あいさつ  
\* 出席者紹介・懇談  
\* 湯茶接待
- 11：30 昼 食（中央診療棟7階特別会議室）  
\* 配膳（弁当・お茶）……〇〇名分  
（大臣側：古川大臣，黒田審議官，佐々木秘書官，八山企画官）  
（名大本部：濱口総長，高橋理事・事務局長，堀内総務部長）  
（名大鶴舞：高橋研究科長，松尾病院長，石黒副病院長，後藤（秀）副病院長，〇〇〇〇，〇〇〇〇，〇〇〇〇，〇〇〇〇，）  
（株）東海メディカルプロダクツ：代表取締役社長 筒井宣政氏）  
\* DVD視聴（昼食中：病院概要）  
\* DVD視聴（昼食終了後：ブレインシアター，ダ・ヴィンチ）
- 11：30 マスコミ受付  
\* マスコミ各社を受け付け，病棟8階大会議室へ案内
- 12：10 移 動（中央診療棟7階 → 病棟8階大会議室）



- 12:15 プレゼンテーション及び質疑応答（病棟8階大会議室）  
\* 病院概要……………松尾病院長  
\* 国際交流……………後藤(秀)副病院長, 坂本教授  
\* 先端医療……………石黒副病院長, 長尾病院長補佐  
\* 臨床研究……………直江教授又は水野准教授  
（質疑応答は各担当教員）
- 13:00 移 動（病棟8階 → 中央診療棟6階）
- 13:05 病院内視察開始（中央診療棟6階→5階手術部→4階医療の質・安全管理部）  
\* 臨床研究【先端医療・臨床研究支援センター】  
……………直江センター長又は水野准教授  
\* 先端医療【ダ・ヴィンチ】……………後藤(百)副病院長  
\* 先端医療【ニューロアイメイト】……………若林脳神経外科長  
\* 先端医療【医療安全システム】……………長尾病院長補佐
- 14:35 国際交流（中央診療棟2階待合リハビリ広場（採血室前））  
\* 留学生集合（14:30までに完了）……………坂本教授, 粕谷准教授  
\* 古川大臣と留学生の懇談……………坂本教授, 粕谷准教授
- （終了後） 懇 談（中央診療棟7階特別会議室）  
\* 病院視察後の古川大臣と研究科・病院主要幹部との懇談  
\* 湯茶接待
- 15:00 名古屋大学鶴舞キャンパス 発  
\* 医系研究棟1号館前（ローソン前）から見送り  
\* マスコミ撤収
- 〇〇:〇〇 名古屋駅 着
- 〇〇:〇〇 名古屋駅 発（のぞみ 号）

科学研究費補助金 年度当初の内定状況[年度別]

名古屋大学

区 分		17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度
申請件数	新規分	1,866	1,832	1,671	1,718	1,484	1,413	1,508	1,418
	継続分	664	741	761	785	826	931	880	1,067
	計	2,530	2,573	2,432	2,503	2,310	2,344	2,388	2,485
内定件数	新規分	548	475	521	530	444	428	609	554
	継続分	664	741	761	785	826	931	880	1,067
	計	1,212	1,216	1,282	1,315	1,270	1,359	1,489	1,621
内定率 (内定件数 /申請件数)	新規分	29.37%	25.93%	31.18%	30.85%	29.92%	30.29%	40.38%	39.07%
	継続分	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%
	計	47.91%	47.26%	52.71%	52.54%	54.98%	57.98%	62.35%	65.23%
内定金額 (直接経費 (千円))	新規分	2,511,100	2,119,300	1,749,800	1,727,900	1,417,300	1,285,200	1,818,570	1,635,100
	継続分	2,727,000	3,463,826	3,524,670	3,377,280	3,252,376	3,012,490	2,838,473	3,392,400
	計	5,238,100	5,583,126	5,274,470	5,105,180	4,669,676	4,297,690	4,657,043	5,027,500

注1)各年度とも年度当初に文部科学省が公表した年度当初の配分状況によるものである。

注2)集計している研究種目は、学術創成研究費、特定領域研究、新学術領域研究、基盤研究、挑戦的萌芽研究、若手研究、研究活動スタート支援の交付内定分であり、特別推進研究、新学術領域研究(新規領域)、基盤研究(S)、研究活動スタート支援の申請数、新規採択数を含まない。

<参 考>

平成24年度科学研究費補助金予算総額2,566億円(23年度 2,633億円)

# 賞 状

優秀賞

名古屋大学豊田講堂

国立大学法人名古屋大学殿

貴大学の右建築物は一般社団法人  
公共建築協会主催の第十三回公共  
建築賞において優秀と認められたので  
これを賞します

平成二十四年六月六日

一般社団法人公共建築協会

会長 春田浩司





名古屋大学  
あいちサイエンスフェスティバル  
プレスリリース  
<https://aichi-science.jp/>



---

## 日本サイエンスコミュニケーション協会の副会長が世界の科学祭を紹介 あいちサイエンスコミュニケーション・セミナーを開講

---

名古屋大学 産学官連携推進本部 あいちサイエンスフェスティバル事務局（464-8601 名古屋市中千種区不老町）は、あいちサイエンスコミュニケーション・セミナーを開講いたします。

### あいちサイエンスフェスティバル 2012 通年企画

#### あいちサイエンスコミュニケーション・セミナー第1回 「世界のサイエンスフェスティバル」

<http://aichi-science.jp/events/single/450>

日時： 2012年6月30日（土）15:30～17:00

場所： ジュンク堂書店ロフト名古屋店 7階ブックサロン  
460-0008 名古屋市中区栄 3-18-1 ナディアパーク内

講師： 縣 秀彦（あがた・ひでひこ）氏

日本サイエンスコミュニケーション協会副会長  
東京国際科学フェスティバル実行委員長  
国立天文台天文情報センター准教授

- ・ 参加費無料。先着 40 名程度（ウェブからの事前申込者を優先します）
- ・ 年間を通じての連続セミナーですが、1 回ごとの受講も受け付けます。
- ・ あいちサイエンスフェスティバルのウェブ（<https://aichi-science.jp>）で映像アーカイブを予定しています。

---

### あいちサイエンスコミュニケーション・セミナー

---

本セミナーは、2011年にスタートした「あいちサイエンスフェスティバル」(ASF)の輪を広げる通年企画として連続開講。シリーズ前半では、ASF2012を知るレクチャーを展開。6月30日（土）の第1回は、世界的に広まるサイエンスフェスティバルを、テレビでの天文解説でおなじみの縣秀彦氏が紹介します。ASF2012と連携する国際航空宇宙ショー JAPAN AEROSPACE2012 (JA2012)の講義も計画。29年ぶりに飛行場開催となるナショナル航空ショーも専門家が紹介予定です。ASF2012終了後の後半では、サイエンスとは何かを一緒に考え、サイエンストークなどのやり方を身につけます。年度末には、6つに分類されたモジュールそれぞれで必要回数以上を受講/参加した方に、修了証兼サイエンスコミュニケーター・カードを授与の予定。開講予定は裏面をごらんください。\* 本企画は JST ネットワーク形成地域型により実施します。

#### 【本件に関するお問い合わせ先】

名古屋大学 産学官連携推進本部 担当・藤吉（ふじよし）

tel : 052-747-6527 / E-mail : [festival@aichi-science.jp](mailto:festival@aichi-science.jp)

**あいちサイエンスコミュニケーション・セミナー開講予定**

**講義・実習・見学モジュール（座学系セミナー）**

日程	開講テーマ	講師/担当	開講場所	分類
6月30日(土) 15:30~17:00	世界のサイエンスフェスティバル	縣秀彦 (日本サイエンスコミュニケーション協会副会長)	ジュンク堂書店ロフト名古屋店	講義C
7月28日(土)	今年のあいちサイエンスフェスティバル	藤吉隆雄(名古屋大学ASF事務局)	ジュンク堂書店ロフト名古屋店	講義C
8月予定	国際航空宇宙ショーが愛知県にやってくる！(予定)	調整中	ジュンク堂書店ロフト名古屋店	講義S
9月下旬 (土) 予定	国際空港を探検する！(セントレアの秘密を見学)	中部国際空港株式会社(予定)	中部国際空港セントレア(予定)	見学
10月予定	調整中	調整中	調整中	
11月予定	愛知県の科学技術政策はどうなっている？(仮)	愛知県 産業労働部(予定)	あいち産業科学技術総合センター(豊田市、予定)	講義S
	愛知県の新しいサイエンス基地を見てみる！(知の拠点見学)	愛知県 産業労働部(予定)	あいち産業科学技術総合センター(豊田市、予定)	見学
12月予定	サイエンスコミュニケーションってなに？(仮)	川勝博(名城大学教授)	調整中	講義C
	サイエンスと産業の関係はどうなっている？(仮)	武田穰(名古屋大学教授)	調整中	講義C
1月予定	サイエンストーク 基本の基本(仮)	調整中	調整中	講義C
	自分で企画を考えてみよう！(仮)	調整中	調整中	講義C/実習
2月予定	サイエンストークの道具たち(仮)	調整中	調整中	実習
	インターネット映像中継に挑戦(仮)	調整中	調整中	実習

開講テーマは追加・変更される可能性があります。

**体験・実践モジュール（活動系セミナー）**

日程	提供テーマ	対象となる活動	分類
随時	サイエンスカフェ体験	サイエンストーク, 名大カフェ, 科学夜話, 総合数理懇話会	体験
随時	市民向け講演会体験	先端科学技術と社会	体験
随時	サイエンスカフェ司会	サイエンストーク	実践
随時	サイエンスカフェ中継	サイエンストーク	実践
随時	講演会運営	先端科学技術と社会	実践
随時	講演会中継	先端科学技術と社会	実践

提供テーマは追加される可能性があります。



名古屋大学  
あいちサイエンスフェスティバル  
プレスリリース  
<https://aichi-science.jp/>



## 切手を通じて星座を楽しむサイエンストークを栄で開催

名古屋大学 産学官連携推進本部 あいちサイエンスフェスティバル事務局（464-8601 名古屋市千種区不老町）は、さかえサイエンストークを6月30日（土）夜に開催いたします。

### あいちサイエンスフェスティバル 2012 プレ企画

#### さかえサイエンストーク（第33回）

#### 「切手で星座を楽しもう」

<http://aichi-science.jp/events/single/452>

日時：2012年6月30日（土）18:30～20:00

場所：ジュンク堂書店ロフト名古屋店 7階ブックサロン

460-0008 名古屋市中区栄3-18-1 ナディアパーク内

ゲスト：縣 秀彦（あがた・ひでひこ）氏（国立天文台 准教授）

参加費等：無料。当日先着30名程度（予約制ではありません）

※あいちサイエンスフェスのウェブ（<https://aichi-science.jp>）での映像アーカイブを予定しています。

### トーク内容

日本郵政では昨年の夏より、星座切手のシリーズを発表しています。古くから世界各国でも切手に取り上げることが多い星座の世界。今回は、切手にも取り上げられる星座の世界を、最新科学の話題も交えてご紹介します。

### ゲスト



縣 秀彦 自然科学研究機構 国立天文台 准教授 天文情報センター普及室長

1961年長野県生まれ、専門は天文教育（教育学博士）。日本サイエンスコミュニケーション協会副会長。NHK 高校講座やラジオ深夜便に出演中。「天文学者はロマンティストか？」（単著、NHK出版）、「宇宙の地図帳」（監修、青春出版）など著作物多数。

### さかえサイエンストーク

市民と研究者・専門家が気軽に語り合う、あいちサイエンスフェスティバル事務局によるサイエンス・カフェ。狭義の科学だけではなく、技術やものづくり、カルチャーまでも含めた広い意味のサイエンスを取り上げ、名古屋の栄地区を中心に開催するトークイベントです。 ※さかえサイエンストークはJSTネットワーク形成地域型により開催します。

#### 【本件に関するお問い合わせ先】

名古屋大学 産学官連携推進本部 担当・藤吉（ふじよし）

tel：052-747-6527 / E-mail：[festival@aichi-science.jp](mailto:festival@aichi-science.jp)



さかえサイエンストーク 開催実績

2011.04.29	鉄道に思いを寄せて ～鉄道写真の世界～	金盛正樹 / 鉄道カメラマン
2011.04.29	鉄道に思いを寄せて ～鉄道模型フォトの世界～	金盛正樹 / 鉄道カメラマン
2011.04.30	鉄道に思いを寄せて ～鉄道写真の世界～	金盛正樹 / 鉄道カメラマン
2011.04.30	鉄道に思いを寄せて ～鉄道模型フォトの世界～	金盛正樹 / 鉄道カメラマン
2011.08.25	サイエンスイラストレーション 魅惑の世界	D.Rini / 米 JHU、田中佐代子 / 筑波大学
2011.09.02	夢に翔んだボーイジャー	樋口敬二 / 名古屋大学 (名誉教授)
2011.09.06	世界の航空宇宙ショー	宮修一 / 日本航空宇宙工業会
2011.09.13	古生物学者の世界見聞録 ～フィールド調査と異文化交流～	荻野慎太郎 / (株) ActoW
2011.09.23	私がダニのコンピュータグラフィックを描くようになったわけ?	五箇 公一 / 国立環境研究所
2011.10.03	ミステリアスな能面を科学する	西村律子 / JST-ERATO 岡ノ谷情動情報P
2011.10.04	卵も肉もおいしい「岡崎おうはん」の開発	山本力也 / 家畜改良センター岡崎牧場
2011.10.05	地域活性化と国際観光 -あいちの魅力-	新美達也・鈴木尚彦 / 名古屋大学
2011.10.06	食糧からバイオ燃料、そして放射性物質の除染まで -微細藻類への期待-	竹中裕行 / マイクロアルジェコーポレーション (株)
2011.10.07	SF みたいな生活を実現する先進プラズマテクノロジー	青木猛 / 名古屋産業振興公社
2011.10.11	カメって本当に長生き? ～カメたちの不思議な生活～	矢部隆 / 愛知学泉大学
2011.10.12	花の香りってこんなに変わるの!? あま～い香りのちっちゃなキク「アロمام」の誕生とその力!	津田その子 / 中部電力 (株)
2011.10.13	色を見て考える脳のしくみ	鯉田孝和 / 豊橋技術科学大学
2011.10.14	もう一つのガラパゴス発見! 静電気と異物の世界	小さなベンチャー世界を変える 高柳真 / (株) TRINC
2011.10.17	世界のスマートシティプロジェクトとその未来	岡村久和 / 日本アイ・ビー・エム (株)
2011.10.18	身近な微生物の驚くべき能力とその利用を目指す微生物研究の最前線	堀克敏 / 名古屋大学
2011.10.19	デザインで街を科学しよう! 芸術と工学の融合へ	伊藤孝紀 / 名古屋工業大学
2011.10.20	機能性を持たせた新しい食品の開発	高田幸宏 健康生活素材 (株)
2011.10.21	ヒマラヤ山脈の下が流れてから固まるまで	今山武志 / 名古屋大学
2011.10.24	アナログ放送終了後の電波を利用した新サービス	小沢寿行 マスプロ電工 (株)
2011.10.25	循環型社会に貢献する自動車用内装繊維製品へのリサイクル PET の利用	永谷裕介 / (株) 高木化学研究所
2011.10.26	ナノバイオデバイスが拓く“健幸”社会	馬場嘉信 / 名古屋大学
2011.10.27	米焼酎でカンボジアの地域開発を!	伊藤香純 / 名古屋大学
2011.10.28	氷を掘る	金森晶作 / 公立ほこだて未来大学
2011.11.01	漢方の科学 ～現代における漢方の役割とその可能性～	牧野利明 / 名古屋市立大学
2012.05.08	サンパチェンスで感動、環境、そしてエネルギー	小杉波留夫 / (株) サカタのタネ
2012.05.16	切ったら増える植物の再生能力の謎に迫る	石川雅樹 / 基礎生物学研究所
2012.05.30	意外と楽しいゾ、植物園!	松谷茂 / 京都府立大学

あいちサイエンストーク (栄地区以外で開催) 開催実績と予定

2011.12.16	サイエンス・ジャーナリズムってなんだろう?	藤吉隆雄 / 名古屋大学 (於: 名古屋大学)
2012.06.02	光る生き物のサイエンス	大場裕一 / 名古屋大学 (於: 豊橋市自然史博物館)
2012.06.09	右手形と左手型の分子をつくりわける	北村雅人 / 名古屋大学 (於: 豊橋市自然史博物館)
2012.06.16	謎の素粒子ニュートリノ	伊藤好孝 / 名古屋大学 (於: 豊橋市自然史博物館)
2012.06.23	物質と質量の起源の謎に挑む	棚橋誠治 / 名古屋大学 (於: 豊橋市自然史博物館)
2012.06.28	切ったら増える植物の再生能力の謎に迫る	ビデオ視聴 (於: シアターカフェ / 名古屋市中区)

○行事等

日(曜日)	行事等の名称	概要	連絡先
3月17日(土)～ 8月31日(金) (日・月曜日、 8月11日(土)～ 14日(火)休館)	第16回博物館特別展 「大モンゴル展」	場所:博物館展示室 時間:10:00～16:00 入場料:無料  [関連講演会] 場所:博物館講義室  7月4日(水) 時間:14:00～15:00 講演題目:「創業者・三島海雲の軌跡～『カルピス』の秘密」 講演者:篠田 直氏(カルピス株式会社マネージャー) 時間:15:15～15:45 講演題目:「カルピス社における発酵乳・乳酸菌研究について」 講演者:松下晃子氏(カルピス株式会社主任) 7月21日(土) 時間:13:00～14:30 講演題目:「モンゴルの詩人たちー現代に息づくモンゴル詩の伝統と文化ー」 講演者:阿比留美帆氏(元駐モンゴル日本大使館専門調査員) 7月28日(土) 時間:13:00～14:30 講演題目:「モンゴルの馬 馬頭琴伝説からみた馬の陰喩」 講演者:藤井真湖氏(愛知淑徳大学准教授)	博物館事務室 052-789-5767
4月5日(木)～ 8月31日(金) (土・日曜日、祝 日休館)	博物館サテライト展示 「徒然の写真展ー驚きのワンダー ランド モンゴルー」	場所:野外観察園展示室 時間:10:00～16:00 入場料:無料	博物館事務室 052-789-5767
6月29日(金)	International Symposium on Language Processing	場所:全学教育棟北棟4階多目的講義室 時間:13:00～18:30 講演者:ニルス・シラー氏(オランダライデン大学教授)、コリン・フィ リップス氏(アメリカメリーランド大学教授) 参加費:無料	国際言語文化研究科 教授 玉岡賀津雄 ktamaoka@lang.nagoya-u.ac.jp
6月30日(土)	「指輪物語」を語り尽くす	場所:全学教育棟北棟4階多目的講義室 時間:10:00～17:00 講演題目:「トールキンから『指輪物語』を考える」 講演者:水井雅子氏(金沢学院大学教授) 参加費:無料	国際言語文化研究科 准教授 渡辺美樹 052-789-4786
6月30日(土)	名古屋市生涯学習推進センター 大学連携キャンパス講座 「達人(研究者)と話そうーヒトとか らだー」	場所:博物館講義室 時間:10:30～12:00 講演題目:「健康に役立つ磁気」 講演者:毛利佳年雄氏(本学名誉教授) 定員:80名 対象:一般(基本的に毎回参加できる人) 参加費:無料	博物館事務室 052-789-5767
6月30日(土)	あいちサイエンスコミュニケーショ ン・セミナー第1回	場所:ジュンク堂書店ロフト名古屋店7階ブックサロン(名古屋市中 区) 時間:15:30～17:00 テーマ:「世界のサイエンスフェスティバル」 講演者:縣 秀彦氏(自然科学研究機構国立天文台准教授) 定員:40名 対象:中学生以上、一般 参加費:無料	産学官連携推進本部 特任助教 藤吉隆雄 052-747-6527
6月30日(土)	あいちサイエンスフェスティバル 2012プレ企画 さかえサイエンストーク第33回	場所:ジュンク堂書店ロフト名古屋店7階ブックサロン(名古屋市中 区) 時間:15:30～17:00 テーマ:「切手で星座を楽しもう」 講演者:縣 秀彦氏(自然科学研究機構国立天文台准教授) 定員:30名 対象:中学生以上、一般 参加費:無料	産学官連携推進本部 特任助教 藤吉隆雄 052-747-6527
7月1日(日)	日本古生物学会・環境学研究所・ 博物館共催普及講演会	場所:野依記念学術交流館2階大会議室 時間:13:30～15:00 講演題目:「生きている化石と古生物学」 講演者:大路樹生(博物館教授) 参加費:無料	博物館事務室 052-789-5767
7月4日(水)	平成24年度工学部懇話会	場所:IB電子情報館2階大講義室 時間:13:00～17:10	工学部・工学研究科 教務課学生支援掛 052-789-3599



7月5日(木)、 6日(金)	第2回睡眠研究会	場所:シンポジオンホール 時間:13:00~18:40(7/5)、9:00~15:25(7/6) 参加費:無料	環境医学研究所神経系分野2 052-789-3864
7月6日(金)	ベトナム憲法改正調査団来訪	場所:豊田講堂 内容:「ベトナム憲法改正に係る日本国憲法調査のため、鮎京正訓(本学理事)及び法学研究科教員との意見交換	国際部国際企画課 052-789-2043
7月7日(土)、 7月21日(土)、 8月4日(土)	ビジネス人材育成センター 平成23年度前期 B人セミナー	場所:インキュベーション施設1階プレゼンテーションルーム 時間:10:00~15:00 テーマ:「製造業における知財戦略と知財部門の業務内容」、 「学位への道、学位からの道」(7/7) 「長期インターンシップ事前研修 知的財産取扱に関する留意点」、 「再生医療の現状と今後の展望」(7/21) 「ビジネスマナーと企業のルール」、 「食品のためのヒト臨床試験業界」(8/4)	社会貢献人材育成本部 ビジネス人材育成センター 052-747-6490
7月7日(土)、 7月21日(土)、 8月4日(土)、 8月18日(土)	[博物館友の会会員向け] シャンソンサークル	場所:博物館講義室 時間:10:15~12:15	博物館事務局 052-789-5767
7月7日(土)、 7月28日(土)、 8月4日(土)、 8月25日(土)	[博物館友の会会員向け] ポタニカルアートサークル	場所:博物館講義室(7/7、8/4)、野外観察園展示室(7/28、8/25) 時間:13:00~15:45	博物館事務局 052-789-5767
7月10日(火)~ 27日(金)	平成24年度国別研修 「ナミビア イネーヒエ混作農法に 係る農民参加型普及手法」	場所:国際開発研究科、近畿大学、滋賀県立大学、他 内容:ナミビア農民参加型イネーヒエ混作栽培普及技術研修 [関連公開セミナー] 7月12日(木) 内容:「ナミビア JICA 研修員によるジョブレポート発表会」 場所:国際開発研究科8階第1会議室 時間:13:00~14:30 参加費:無料	国際開発研究科 西川芳昭研究室事務局 hayashi@gsid.nagoya-u.ac.jp
7月12日(木)	トーゴ臨時代理大使講演	場所:国際開発研究科8階オーデトリウム 時間:10:30~11:30 講演題目:「トーゴ:概要及び日本との二国間関係」 講演者:M. A. D. アクレソ・氏(在日トーゴ共和国大使館臨時代理大使) 使用言語:フランス語(英語通訳あり) 参加費:無料	国際開発研究科プロジェクト室 052-789-5066
7月13日(金)	講演会+メディアプロフェッショナル・コース進学説明会	場所:文系総合館7階カンファレンスホール 時間:16:00~19:00 内容:講演会、コース・教員紹介、在学生からのメッセージ・進学相談 講演題目:「テレビは21世紀に生き残るか」 講演者:佐藤幹夫氏(NHK名古屋放送局長) 参加費:無料	国際言語文化研究科 メディアプロフェッショナル・コース 事務局 052-789-4187
7月14日(土)	平成24年度名古屋大学協力会 総会・講演会	場所:野依記念学術交流館 時間:13:30~18:00 テーマ:「航空宇宙技術に学ぶ」 講演題目:「航空宇宙最新技術のトレンドおよび複合材技術」 講演者:石川隆司(工学研究科教授) 講演題目:「航空機技術の自動車産業への波及について」 講演者:川合勝義氏(株式会社VRテクソセンタープロジェクトコーディネーター) 講演題目:「最新レーザ加工技術」 講演者:杓名宗春氏(最新レーザ技術研究センター代表取締役) 講演題目:「衛星軌道制御技術の紹介」 講演者:山田克彦(工学研究科教授) 参加費:無料(講演会のみ。意見交換会は1,000円(非会員・学生))	名古屋大学協力会事務局 052-744-1987
7月14日(土)	博物館コンサート 「音楽で学ぶモンゴルの歴史」	場所:博物館展示室 時間:14:00~15:00 演奏者:小寺里枝氏(ヴァイオリン)、鈴木美香氏(ピアノ) 参加費:無料	博物館事務局 052-789-5767
7月19日(木)	名古屋大学・日本IBM 共同セミナー	場所:IB電子情報館2階大講義室 時間:13:00~17:00 内容:講演、ラウンドテーブル 対象:本学構成員および一般	情報文化学部・情報科学研究科 事務局 052-789-4716

7月19日(木)	グローバルCOE「機能分子医学への神経疾患・腫瘍の融合拠点」第5回国内シンポジウム	場所: 医学部附属病院中央診療棟3階講堂 時間: 13:00~18:15 対象: 関係研究者 参加費: 無料 懇親会費: 1,000円	GCOE推進室 052-744-1946
7月20日(金)、 21日(土)	第25回タンデム加速器及びその周辺技術の研究会	場所: 野依記念学術交流館 参加費: 2,000円(一般・プロシーディングズ代込み)、無料(学生・プロシーディングズは別途1,000円)	年代測定総合研究センター事務局 052-789-2579
7月20日(金)	第81回防災アカデミー	場所: 環境総合館1階レクチャーホール 時間: 18:00~19:30 講演題目: 「心理学で危機に備える」 講演者: 窪田由紀(教育発達科学研究科教授) 参加費: 無料	減災連携研究センター 052-789-3468
7月26日(木)	高等教育研究センター 第61回客員教授セミナー	場所: 文系総合館7階オープンホール 時間: 16:00~18:00 講演題目: 「大学のナレッジマネジメント-IRからKMへ」 講演者: 松塚ゆかり氏(一橋大学教授)	高等教育研究センター 052-789-5696
7月27日(金)	第14回げんさいカフェ - Gen Science Café -	場所: カフェロンテ 時間: 18:00~19:30 講演者: 北野哲司(減災連携研究センター寄附研究部門教授) 参加費: 無料(会場にてドリンクの注文が必要)	減災連携研究センター 052-789-3468
7月28日(土)~ 8月25日(土)	防災・減災カレッジ	場所: 豊田講堂、他 時間: 10:00~17:00 内容: 防災人材育成研修	減災連携研究センター 052-789-3468
7月29日(日)	気象台防災講演会	場所: 豊田講堂 時間: 13:00~17:00	減災連携研究センター 052-789-3468
7月30日(月)~ 8月3日(金)	FPSAC' 12 The 24th International Conference on Formal Power Series and Algebraic Combinatorics	場所: 理学南館1階大講義室(坂田・平田ホール)、他 内容: 講演、プレゼンテーション、ポスターセッション、ソフトウェアのデモンストレーション 参加費: 30,000円(一般)、15,000円(学生)	多元数理科学研究科 教育研究支援室 052-789-2833
8月3日(金)	日本学術振興会連携事業 ひらめき☆ときめきサイエンス ~ようこそ大学の研究室へ~ KAKENHI	場所: 齋藤永宏研究室(グリーンビークル材料研究施設3階305室)、 他 時間: 10:00~16:15 テーマ: 「『ハスの葉のすごい』を顕微鏡でのぞいてみよう」 内容: 特殊な顕微鏡でハスの葉の表面を観察し、生物の「すごい」の源について一緒に考える 定員: 20名 対象: 小学生5年生、6年生(可能であれば保護者同伴) 参加費: 無料	齋藤永宏研究室 052-789-5163
8月4日(土)	ミクロの探検隊	場所: 博物館実験室、東山キャンパス構内 時間: 10:20~15:20 テーマ: 「雑木林のムシを電子顕微鏡で見よう」 定員: 20名 対象: 小学5年生以上、一般 参加費: 50円(保険料)	博物館事務局 052-789-5767
8月8日(水)~ 10日(金)	名古屋大学若手女性研究者 サイエンスフォーラム 女子中高生理系進学推進セミナー	場所: 豊田講堂中2階オープンスペースおよび3階第1会議室 時間: 10:00~17:00(予定) 内容: ポスターガイダンス、ポスターセッション(8/9)、講演・総長賞の授与(8/10)、 対象: 愛知・岐阜・三重県の中高校生および保護者、学生、教職員、教員	総務部職員課 男女共同参画室担当 052-789-5976
8月11日(土)	第23回日本数学コンクール 第16回日本ジュニア数学コンクール	場所: IB電子情報館 時間: 10:00~16:00 対象: 高校生、高校生相当年齢の者(日本数学コンクール)、小学5年生以上、中学生(日本ジュニア数学コンクール) 参加費: 1,000円	研究協力部社会連携課 日本数学コンクール係 052-788-6144
8月11日(土)	東日本大震災復興応援企画 「育もう！ 子どもたちの元気な笑顔を！」	場所: 豊田講堂 時間: 15:00~17:30 内容: ミュージカル「ゴーへ(Go Ahead)」	減災連携研究センター 052-789-3468
8月16日(木)~ 10月11日(木) (期間内の火・ 木曜日)	平成24年度名古屋大学公開講座	場所: 経済学部第2講義室 時間: 18:00~19:30 テーマ: 「危機に立ち向かう英知-解決への展望-」 対象: 一般 参加費: 9,200円(全15回)	研究協力部社会連携課 052-789-5969

8月17日(金)～ 25日(土) (土・日曜日、祝 日休館)	博物館サテライト展示 「メディアアート展」	場所: 野外観察園展示室 時間: 10:00～16:00 入場料: 無料	博物館事務室 052-789-5767
8月25日(土)、 26日(日)	名古屋市科学館共催事業 第2回地球教室	場所: 博物館(8/25)、名古屋駅周辺、栄地区(8/26) 時間: 13:30～16:30(8/25)、9:00～15:00(8/26) 内容: 「ナゴヤで化石をさがそう!」 定員: 30名 対象: 小学3年生から中学3年生とその保護者(中学生以上は個人 参加可) 参加費: 1,000円	博物館事務室 052-789-5767
8月25日(土)	教育学部附属高等学校 平成24年度第1回 オープンキャンパス	会場: 教育学部附属高等学校 時間: 9:30～12:30 内容: 概要紹介、在校生による学校紹介、体験授業(国・社・数・英・ 理の内1教科)、入試説明、質疑応答、過去問題集販売 対象: 中学3年生	教育学部附属中学・高等学校 052-789-2680
8月31日(金)	テクノ・フェア名大2012	場所: 豊田講堂、シンポジオンホール 時間: 10:00～17:00 テーマ: 「未来を明日に近づける技術」 内容: ブース展示、基調講演、ミニ講演、研究室見学 講演題目: 「マイクロ・ナノロボットシステムへの招待ーマルチス ケールロボットへのいざないー」 講演者: 福田敏男(工学研究科教授) 講演題目: 「未来をつくるプラズマ」 講演者: 堀 勝(工学研究科教授) 参加費: 無料	工学部・工学研究科社会連携室 052-789-3424
11月24日(土)	野外観察園見学会	場所: 博物館野外観察園、博物館展示室 時間: 13:00～15:00 内容: 西田佐知子(博物館助教)他による案内 参加費: 無料	博物館事務室 052-789-5767
12月4日(火)～ 7日(金)	Strong Coupling Gauge Theories at LHC, Lattice and String (SCGT12)	場所: 理学南館大講堂(坂田・平田ホール) 内容: 素粒子論に関する国際研究集会。ノーベル賞級を含む外国 人研究者が多数参加予定	素粒子宇宙起源研究機構 特任教授 山脇幸一 052-789-2862